

田子町認定農業者連絡協議会設立！

去る平成 28 年 10 月 20 日、田子町中央公民館ホールにおいて田子町認定農業者連絡協議会の設立総会が開催されました。当日は、関係機関の職員 15 名と田子町の認定農業者 253 名のうち 31 名が参加しました。

この会は、田子町の農家個々の農業経営の安定化を図るほか、会員相互の親睦と田子町農業の振興を目的としており、今後は、農業経営の研修会や講習会、先進的農業の視察、担い手の育成・指導などの事業に取り組んでいくこととしています。

総会後には懇親会が開催され、各テーブルでは酒を酌み交わしながら、田子町農業の問題や振興方策について熱い議論を交わす姿が見受けられました。



総会の様子

管内農業者の活躍



佐野氏（新郷村）、第 43 回青森県花の共進会で最優秀賞受賞

平成 28 年 7 月 22 日（金）に、第 43 回青森県花の共進会が開催され、県内の各地から出品された 102 点の中から、佐野光子氏（新郷村）の黄輪ギク「精の光彩」が最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞しました。

佐野氏は、夫婦二人で黄輪ギクを主体に、白輪ギクやスプレーギクを栽培しています。JA 八戸花き部会に所属し、現地講習会や目揃い会などにも積極的に参加しているほか、新郷村西越地区の輪ギク生産者による勉強会でも先進農家として指導的な役割を担っています。佐野氏は、今後も輪ギクの高品質生産に努めていきたいと話していました。

三八地域からは他に、八戸市の石上重徳氏が優秀賞（白輪ギク「精の一世」）、新郷村の荻沢功氏が金賞（白輪ギク「精の輪」）を受賞しました。



左：最優秀賞を受賞した佐野光子氏
右：最優秀賞の「精の光彩」



「あおもり土づくりの匠」認定証授与

県では、高度な土づくりを実践し、地域農業のリーダーとして健康な土づくりの指導的な役割を担う生産者や高品質な堆肥を生産・供給している畜産農家を、「あおもり土づくりの匠」として認定しています。

これまで三八地域では 4 名が認定されていますが、今年度新たに南部町でながいもやにんじん等を栽培している相内洋夫氏が認定されました。

相内氏は牛ふん等を用いた自家製堆肥の使用や微生物に着目した肉粕や魚粕等を発酵・熟成させた自家製発酵肥料による土づくり、機械除草や木酢液等を使用した環境にやさしい農業技術を確立しており、この取組が認められました。



認定証授与式

農業普及振興室のホームページはこちら↓↓

<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/sa-nosui/>



みどりの通信

平成 28 年度第 2 号

〈三八地域県民局地域農林水産部〉

・農業普及振興室

〒039-1101 八戸市大字尻内町字鴨田 7

TEL：0178-27-5111（代表）

TEL：0178-27-4444（直通）

FAX：0178-27-3323

・農業普及振興室分室

〒039-0134 三戸町同心町字同心町平 54-7

TEL：0179-23-3264

FAX：0179-23-3274

カッチャレンジャークラブ主催の農作業安全講習会

(H28年9月6日)



カッチャレンジャークラブは、平成 15 年 3 月に五戸町と新郷村の農村女性 11 名で設立され、毎年、農作業安全に関する講習会や啓蒙活動を行っています。

新年に寄せて

新年明けましておめでとうございます。

唐突ですが、厚生労働省では昭和 40 年以降 5 年間隔で、都道府県別の平均寿命を発表しています。本県の男性は、昭和 50 年以後（最新は平成 22 年）連続最下位、女性は、平成 12 年からは 3 期連続の最下位です。これに対し、長野県は、男性が平成 2 年から連続 1 位、女性は平成 22 年に 1 位となっています。

何故短命県かを生活習慣（厚生労働省平成 18 年～22 年平均）から見ると、①男性の喫煙者割合が 45%の 1 位、②男性の飲酒習慣者割合が 52%の 1 位、③野菜 1 日の摂取量は男性 292 g の 31 位、女性 275 g の 29 位、④食塩 1 日の摂取量は（20 歳以上）男性 13 g の 2 位、女性 10.9 g の 5 位などとなっています。

長野県は、50 年ほど前脳卒中による死亡率が全国 1 位で、塩分を控えて野菜を多く取る運動（摂取量全国 1 位）を実施してきました。本県も、短命県返上に向けて、「健康づくり運動」に取り組んでおり、塩分摂取量は最近かなり減少し、野菜の摂取量は若干増えてはいますが、長野県男性より 83 g、女性より 73 g 少ない状況です。

「1 年の計は元旦にあり」。生活習慣改善計画を立て、野菜や果実の種類が豊富な当地域から長寿を目指すべきではないでしょうか。



農業普及振興室長 岸 春光

農業普及振興室の活動紹介

アスパラガス産地育成に向けて～秋田県視察～

三八地域県民局では、国営事業で整備された八戸平原地域の農業振興を図るため、今年度から県民局重点枠事業により、アスパラガス産地化への取組を進めています。

農業普及振興室では、本事業の一環として、昨年11月18日に、八戸平原地域の生産者及び関係機関担当者と秋田県大仙市で視察研修を実施しました。秋田県では水稻からの転換品目として、アスパラガスの生産振興に力を入れており、大仙市のある仙北地域は、県内でも露地立茎栽培の先進地として知られています。

研修では、秋田おばこ農協のアスパラガス部会副会長である黒澤好悦氏からアスパラガスの栽培管理の状況について聞くことができました。

今回の視察研修で得られたことを参考に、今後の八戸平原地域におけるアスパラガス栽培の普及啓発に努めていきたいと考えています。



黒澤好悦氏ほ場の視察の様子

選果データを活用したももの特秀率の向上

平成28年9月7～8日に開催された、東北ブロック現地活動調査研究会において、三戸分室の久保主幹がJA八戸果樹総合部会も専門部が販売額1億円を超えるまでの、関係機関と普及の取り組みについて発表しました。

平成24年の光センサー式選果機導入を契機に、①センサー糖度値で13度以上の桃を「ぴちぱちピーチ」としてブランド販売、②選果データを基にした個別指導、③各園地に指導カードを掲示し、園主がいつでも確認できる技術指導などの活動を実施した結果、昨年度、販売数量299t、特秀率39%となり、県内農協では初めて販売額が1億円を超える1億84万円を達成しました。

久保主幹は、「1億円の達成は喜ばしいことですが、今後も目標である『特秀率60%』の達成を目指し、取組を継続する必要があります。」と、発表を締めくくりました。



久保主幹の発表の様子

「三八地域青年農業者の集い」を開催！ 三戸、八戸の若手農業者15人が集う！

「三八地域青年農業者の集い」は、将来の地域農業の担い手となる新規就農者や若手農業者の農業技術の習得・向上及び農業者が取り組む自主課題解決活動や新規就農者等とのネットワーク構築を目的に、平成24年度から開催しています。この集いは、今年から三戸地区や八戸地区の農村青少年クラブ員のほか新規就農者等にも幅広く呼びかけし15名が参加しました。5年目となる今年度は、岩手県盛岡市にある農研機構果樹研究所のリンゴ品種育成の取組を研修したほか、同県滝沢市にある農業青年クラブ「たきざわグリーンワークス」とクラブ活動の現状や課題等について意見交換会を行いました。

全国青年農業者会議の優秀農業青年クラブの部で農林水産大臣賞を受賞した「たきざわグリーンワークス」の取組の説明を受け、クラブ員から「会員がなかなか増えない。自分たちのブランドが作れない。」など数多くの意見が出されました。

集い終了後は、八戸市内で反省会が開催され、お互いに親睦を深めるなど実りある1日となりました。



たきざわグリーンワークスとの記念撮影（滝沢市）

管内の出来事

低アミロース米新品種「あさゆき」の特徴

「あさゆき」は、農林総合研究所藤坂稲作部が育成した中生の低アミロース米の新品種です。

低アミロース米は澱粉のアミロース含量が少ないことから、一般的なうるち品種に比べて、ごはんの粘りが強いいため、軟らかく冷めても美味しい特徴があり、おにぎりや弁当などへの使用に適しています。

「あさゆき」は、登熟気温の高低によるアミロース含有率の年次変動が小さく、品質が安定していることから、既存の低アミロース米品種「ねばりゆき」よりも使い勝手が良い品種です。

産直施設等での直売の他、おにぎりや弁当への使用も検討してみたいか。

興味のある人は農業普及振興室へお問合わせ下さい。



左：あさゆき 右：ねばりゆき



アピオス栽培農家の皆さん
H28.10.21 適期収穫講習会にて

アピオスが三戸管内で作付拡大！

アピオス(アメリカトウモロコシ)は、栄養価が高く、無農薬栽培も可能で作りやすいため、平成27年から5戸(田子町4、南部町1)の農家が栽培を始めました。翌28年には、農家が9戸(田子町8、南部町1)に増え、作付面積は約10aから約40aへと拡大しています。

農業普及振興室三戸分室では、年に数回の栽培講習会と収穫後の調製作業説明会を実施し、農家に単収アップの秘訣や省力技術を紹介しながら大きくて甘いアピオスづくりを指導しています。

黒毛和種肥育牛に対する稲SGSの給与方法の検討

田子、三戸地区では、畜産農家が水稻農家と連携し、飼料費のコスト低減を目的として、平成26年より稲SGSを利用した黒毛和種の肥育を行っています。稲SGSとは、もみ米を粉砕して加水・乳酸菌添加を行い、脱気・密封して乳酸発酵させた餌のことです。飼料用とうもろこしと栄養価が近いいため、配合飼料の代替として利用することができます。

田子、三戸地区では平成28年10月5日から11月7日の1ヶ月間で、水田11haから刈り取った飼料用米を2ヶ月間発酵させて90.2tの稲SGSを生産し、黒毛和種繁殖農家と肥育農家で12月から給与を開始しています。



稲SGSの調製作業の様子

鳥獣害対策～青森県集落環境診断研修会～

平成28年8月29日～30日に、三戸町ジョイワーク三戸で集落環境診断研修会が開催され、三八地域の被害防止対策協議会員などが出席し、野生鳥獣による農作物被害防止対策について研修しました。

野生鳥獣による農作物の被害を減らすためには、捕獲などによる個体管理のほかに、生息地管理、行動抑制などの対策を総合的に行い、人間・土地・野生鳥獣の関係を適正に調整することが重要であること、集落単位で被害の発生状況と集落環境を地図化し、野生鳥獣の進入経路と被害の発生している場所の位置を把握することで、効率的な被害防止対策を立てることができることなどを学びました。



北里大学岡田准教授による講演